



## 「イノシシから 松原を守る」

ふかもと まさゆき  
深本 正行 さん



高梁市の委託で松原の猟師として活躍している深本さん。罾を仕掛けて捕獲したり、毎週地域を巡廻して農家の方に注意を促したりしています。どの地域も電柵を設けていますが、草に触れると電気がうまく流れないそうです。そういった見逃しがちなところや、気づきにくいところに掘られた穴を発見し、出没情報を住民に伝えています。

捕獲したイノシシは食用にもしています。9月～11月にかけてが美味しいそうです。どんぐりや栗を食べたイノシシは美味しく、竹の子を食べたものは脂が黄色く、美味しくないと云います。

昔からごぼうや里芋の畑は荒らされないと言われていましたが、人間の残飯でその味を知ってしまったようで、最近では被害に遭うようになりました。人が山に入り芝刈りをしなくなって山が荒れたことや、耕作放棄地が増え、そこを隠れ家にして繁殖しているのが原因だと考えています。「山をきれいにしたらイノシシも減る!」と深本さんは、今日も地域の農作物の安全を守っています。



仕留める時にヤリを向けると、ヤリを噛んだり、機敏にかわすらしい!

